

平成 18 年 10 月 6 日

各 位

会 社 名 デジタルアーツ株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 道具 登志夫  
コ ー ド 番 号 2326 大阪証券取引所 ヘラクレス市場  
問 合 せ 先 取締役 管理本部担当 宮脇 真樹  
(TEL 03-3580-3080)

## 平成 19 年 3 月期 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 18 年 5 月 8 日の「平成 18 年 3 月期 決算短信(連結)」並びに「平成 18 年 3 月期 個別財務諸表の概要」発表時に公表した平成 19 年 3 月期(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)の業績予想を下記の通り修正いたしますのでお知らせいたします。

記

### 1. 平成 19 年 3 月期 単体中間業績予想数値の修正(平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	833	262	149
今回修正予想(B)	594	102	59
増減額(B-A)	△239	△160	△90
増減率(%)	△28.7%	△61.1%	△60.4%
前年同期実績(平成 18 年 3 月期)	652	203	106

(単位:百万円 百万円未満切捨)

### 2. 平成 19 年 3 月期 連結中間業績予想数値の修正(平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	864	239	136
今回修正予想(B)	620	88	34
増減額(B-A)	△244	△151	△102
増減率(%)	△28.2%	△63.2%	△75.0%
前年同期実績(平成 18 年 3 月期)	681	178	81

(単位:百万円 百万円未満切捨)

### 3. 平成 19 年 3 月期 単体通期業績予想数値の修正(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	1,710	600	342
今回修正予想(B)	1,252	252	146
増減額(B-A)	△458	△348	△196
増減率(%)	△26.8%	△58.0%	△57.3%
前年同期実績(平成 18 年 3 月期)	1,338	465	256

(単位:百万円 百万円未満切捨)

#### 4. 平成19年3月期 連結通期業績予想数値の修正(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	1,810	602	343
今回修正予想(B)	1,304	219	102
増減額(B-A)	△506	△383	△241
増減率(%)	△28.0%	△63.6%	△70.3%
前年同期実績(平成18年3月期)	1,389	418	207

(単位:百万円 百万円未満切捨)

#### 5. 修正の理由

平成19年3月期第2四半期におきましては、同第1四半期の連結純損失60百万円から、黒字転換し、当連結中間会計期間全体では当社単体で経常利益102百万円、純利益59百万円、グループ連結で連結経常利益88百万円、連結純利益34百万円となる見通しです。

しかしながら、当初、企業の情報漏洩等のセキュリティ対策への意識の高まりに加えて、内部統制への対応を義務付ける日本版SOX法(金融商品取引法)が、当社の製品への需要を高めると考えておりました。しかし、当該SOX法に関する関係当局のガイドライン整備の遅れが、むしろ、企業向け市場全体のネットワークセキュリティへの対応を極端に鈍化させ、その結果通常の企業の発注行動をも遅らせる結果となったと考えております。さらに、製品採用の検討から受注までの期間が長期化することによる販売代理店を通じた受注時期のずれが生じました。このため、本連結中間期業績は本年5月に発表した連結中間期業績予想を下回る見込みとなりました。

また今連結会計年度中にはこれらの問題が完全には解消されないおそれがあることから、あわせて平成19年3月期通期でも連結売上高1,304百万円、連結経常利益219百万円並びに連結当期純利益102百万円となる見込みです。

#### 6. 中長期の見通し

上記の問題を除きまして、フィルタリング製品・サービス市場への関心は本連結会計年度下期以降も継続するものと考えており、すべての製品市場においてユーザーの確実な増加を見込んでおります。これは、本連結中間期における企業向け製品を除く市場でのほぼ販売計画どおりの進展や過年度に販売された当社製品の更新需要が堅調に進められ安定的な収益基盤となってきたことからも明らかであり、今後は着実な業績数値の達成のための諸施策を図って参ります。今後の各製品市場別の見通しは下記の通りです。

##### 企業向け市場

企業におけるWebフィルタリング製品の導入目的は、「情報漏洩対策」という要素に加え、日本版SOX法を意識した「情報管理ツール」という要素が加わってきています。同時に、製品の導入推進や選定も、リスク対応のためのインフラの整備や関連諸法令への対応を前提とした社内体制整備といった“全社的な取り組み”の中で検討されるようになりました。さらに今後は、外出中の社員の通信端末を含めた一元的な情報セキュリティ対策ツールとしての役割も期待されていることから、企業向けの市場には大きな期待をしております。

##### 公共向け市場

当社がフィルタリング黎明期より取り組み、高い市場占有率をもつ公共向け市場は、当初計画どおり推移しております。同市場の成長性は、緩やかではありますが、教育現場におけるインターネット端末の増加とともに着実に成長を見込める市場であり、今後も当社事業の大きな柱として収益に寄与していくものと思われま。

##### 家庭向け市場

当社製品の高い品質をご評価いただいた結果、市場占有率の高い家庭向け市場においても計画通りの結果が得られております。その理由として、当連結中間期には大型新製品の投入がない中でも、国産パソコンメーカー各社への提供、プロバイダ各社でのサービス提供や、複合カフェでの採用、大手量販店でのパッケージ販売などの各提供先からの収益が確実に積み上がってきております。新たに今年7月には、「iフィルター for ニンテンドーDSブラウザ」を発売し、パソコン以外のモバイル端末へのサービス提供も実現致しました。インターネットの普及は急速な勢いで進んでおり、今後はパソコン以外の製品やサービスとのアライ

アンスがますます拡大していくと思われま。特に普及が進んでいる情報端末での Web フィルタリングについては、デジタルアーツが他社に先駆けて開発し、特許を取得した「モバイル端末向けのフィルタリング技術」の商品化が完成しつつある状況です。

詳細につきましては、当社 IR ページ([http://www.daj.co.jp/ir/ir\\_inv.htm?lid=1](http://www.daj.co.jp/ir/ir_inv.htm?lid=1))もご参照ください。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、本発表数値につきましては速報値でありますので、決算発表時の数値と若干のずれが生じる可能性がありますので、予めご了承ください。

以上